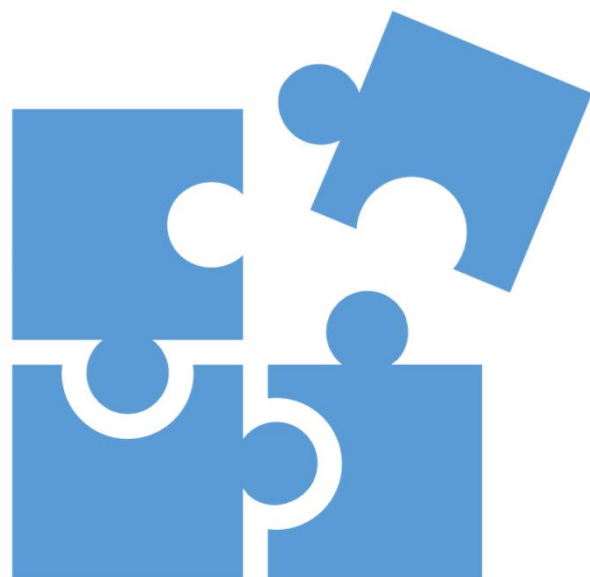


学校における働き方改革の着実な推進について

令和 6 年12月13日（金）

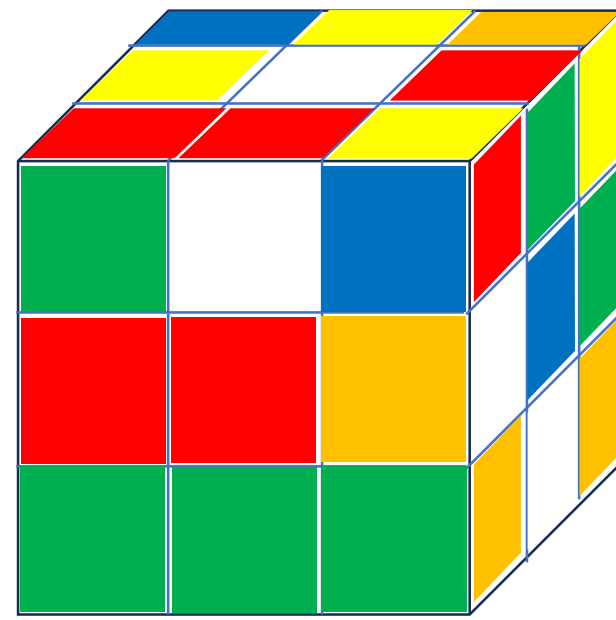
県教育庁働き方改革推進課

部分最適



ジグソーパズル型

全体最適



ルービックキューブ型

対話

聴く、訊く、聞く、

▶▶▶ やる気が沸いてくれば . . .

はじめに

■ 交流タイム 1（隣近所の方と情報交換を！）

● 「うちの学校で、〇〇〇〇〇〇！」

卒業式（修了式）の日、
どんなコメントを期待していますか？

子供たちから、 保護者から、 地域から、 職員から、
そして、私自身は・・・



そのとき、子供たちはどんな姿（表情）でしょうか？

（投稿欄「交流タイム 1」にコメントを返信してみよう!!）

学校における働き方改革
について、

- ☐ 目指す方向性の共有
- ☐ 必要性の振り返り
- ☐ 具体的な取組の再考

本日の流れ

学校における働き方改革は、

- どこを目指すの？
- なぜ、推進するの？
- どのように、
推進するの？



学校における働き方改革は、

■ どこを目指すの？

■ なぜ、推進するの？

■ どのように、推進するの？



「みんなの学校!ピースフル・プラン」リーフレット版

これから3年間!
新しいプランで進めよう!!



「学校における働き方改革」の目指すべき方向性

教職員のこれまでの働き方を見直し、長時間勤務の改善を図ることで教職員の健康を守ることとはもとより、日々の生活の質や教職人生を豊かにするなど、教職員のウェルビーイングを確保するとともに、自らの人間性や創造性を高め、**子供たちに対してより良い教育を行うことができるようにすること**です。

 令和6(2024)年3月
沖縄県教育委員会

みんなの学校!ピースフル・プラン(全体版)はこちら

<https://www.pref.okinawa.jp/kyoiku/edu/1008490/1008491/1008508/1024388/1027590.html>



「学校における働き方改革」の目指すべき方向性

教職員のこれまでの働き方を見直し、長時間勤務の改善を図ることで教職員の健康を守ることとはもとより、日々の生活の質や教職人生を豊かにするなど、教職員のウェルビーイングを確保するとともに、自らの人間性や創造性を高め、**子供たちに対してより良い教育を行うことができるようにすること**です。

「子供たちに対してより良い教育」とは？

☐ 学習指導要領前文（平成29、30年改訂）

☐ 沖縄県教育目標

■ 学校における働き方改革は、どこを目指すのか？

■ 学習指導要領前文（平成29、30年改訂）

これからの学校には.....（略）

一人一人の児童（生徒）が、
自分のよさや可能性を認識するとともに、
あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、
多様な人々と協働しながら
様々な社会的変化を乗り越え、
豊かな人生を切り拓き、
持続可能な社会の創り手となることが
できるようにすることが求められる。

■ 学校における働き方改革は、どこを目指すのか？

豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育成

■ 沖縄県教育目標

- ▶ 個性の尊重を基本とし、
国及び郷土の自然と文化に誇りをもち、
創造性・国際性に富む人材の育成と
生涯学習の振興を図る。

「人こそが最大の資源」
との考え方を共有

豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育成

自立（自律）した
学習者の育成

□ 沖縄県教育目標

- ✓ **自ら学ぶ意欲**を育て、**学力の向上**を目指すとともに、**豊かな表現力とねばり強さ**をもつ**幼児児童生徒を育成**する。
- ✓ 平和で安らぎと活力ある**社会の形成者**として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際社会・情報社会等で活躍する**心身ともに健全な県民を育成**する。
- ✓ **学校・家庭・地域社会の相互の連携及び協力**のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、**生涯学習社会の実現**を図る。

■ 学校における働き方改革は、どこを目指すのか？

豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育成

自立（自律）した学習者の育成

「子供たちに対してより良い教育」を行うことにより

- ✓ 職場での良好な人間関係
- ✓ ゆとりある時間
- ✓ 児童生徒との信頼関係
- ✓ 研修や教材研究等の充実
- ✓ 安全・快適な職場環境づくり
- ✓ 長時間勤務の改善

．．． 等々「時間や機会」が必要 11

学校からの声 本県の現状『学校における働き方改革アンケート(2023)』より



小学校教諭

念願の教員になり、その仕事は素晴らしいです。子どもに関わることができて幸せです。しかし、仕事が多すぎて、なかなか定時に帰れません。誰も教材研究を無くしてほしいとは言いません。教師として、子どもたちに本当に必要なものを知っているからです。後輩達にもその素晴らしさを伝えられるよう、早急な業務内容の精選をお願いしたいです。

教師という職業にしかない魅力は多く、素晴らしい職業だと思っています。しかし、その魅力を上回るほどの負担があるように感じています。少しでも多くの業務が改善され、先生方の負担が軽くなり、生徒と向き合い関わる時間が増えることを望んでいます。



中学校教諭



高等学校教諭

教職員の本来の業務は授業や生徒の育成であるはずなのに、それ以外の業務の量が多すぎて授業準備・改善に集中できません。1人当たりの業務量を減らすために業務の大幅削減などが早急に必要と感じています。

教員の働き方改革は、生徒の学習と切れない問題だと思っています。生徒の多様な学びを保障するためには教員の多忙が改善されなければ難しい。人員の増、専門家の活用、地域との連携、どれをとってもお金をかけずに、善意に頼っている間は解決は難しいのではないのでしょうか。



特別支援学校
管理職

■ 学校における働き方改革は、どこを目指すのか？

「子供たちに対してより良い教育」を行うためには・・・

★ 教職員が忙しすぎることは、子供たちのためにならない

より良い教育を行うための「時間と機会の創出」が必要

学校における働き方改革の推進が必要不可欠

◆ 子どもたちへの”よりよい教育”を行うためには？

「学校における働き方改革」の目指すべき方向性

教職員のこれまでの働き方を見直し、長時間勤務の改善を図ることで教職員の健康を守ることとはもとより、日々の生活の質や教職人生を豊かにするなど、教職員のウェルビーイングを確保するとともに、自らの人間性や創造性を高め、**子供たちに対してより良い教育を行うことができるようにすること**です。



目的

教職員一人一人が、良好な人間関係を築き、心身ともに健康で本来の職務に専念し、児童生徒と共に学び、成長しながら、専門性を十分に発揮して、「子供たちへのより良い教育」を行っていくことができる教育環境を整える。▶ **児童生徒と教職員のウェルビーイングの向上**

目的の5つのポイント

- | | | |
|-----------------|---------|------------|
| ①良好な人間関係の構築 | ②心身の健康 | ③本来の職務への専念 |
| ④児童生徒と共にした学びと成長 | ⑤専門性の発揮 | |

教職員
重要な
教育環境

POLICY

● 教育環境を整えるには？

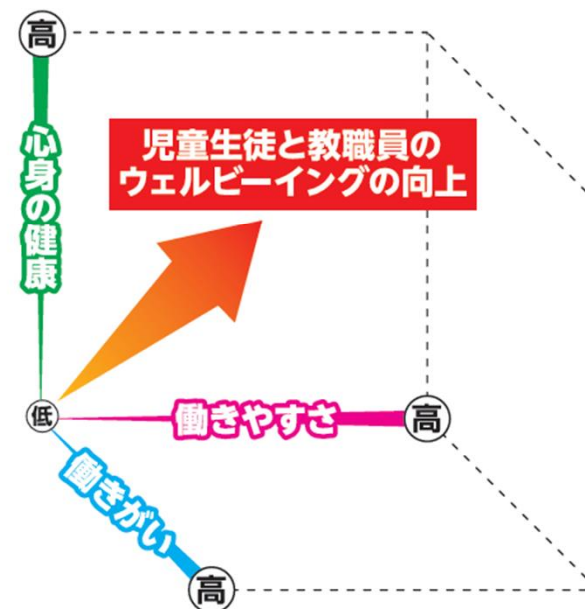
目 標

目的実現のための「3軸・6視点」の実感の向上

教職員が「働きやすさ」「働きがい」「心身の健康」を十分に実感できる環境整備

3軸	働きやすさ	働きがい	心身の健康
6視点	同僚・管理職との良好な人間関係の構築	児童生徒・保護者との信頼関係の構築	心身の健康の確保と安全・快適な職場環境の形成
	個人の裁量(ゆとり)ある時間の確保	資質能力の向上や専門性の発揮	長時間勤務の改善

働き方改革とメンタルヘルス対策の一体的な取組



👉 「3軸・6視点」の実感を向上するためには？

「時間と機会の創出」が必要

● 時間と機会を創出するためには？

Ⅱ 目標達成に向けた取組

教職員が「働きやすさ」「働きがい」「心身の健康」を十分に実感できるためには、
“時間と機会を創出する”ことが必要である。

“時間と機会を創出する”ための柱

- ✓ 人材の確保
- ✓ 教育DXの推進
- ✓ 業務の役割分担・適正化

EFFORTS

具体的取組

『私たちのピース・リスト2023』に取り組むこと

児童生徒の成長や発達を支援する教職員が“働きやすさ”“働きがい”“心身の健康”を十分に実感できる学校づくりに向けて、関係者一人一人が各取組事項を自分事として受け止め、その役割と責任の下、各々の取組を着実に進める必要があります。

 『私たちのピース・リスト2023』
を活用し、自分事として取り組む

● 時間と機会を創出するためには？

『私たちのピース・リスト2023』

<https://www.pref.okinawa.jp/kyoiku/edu/1008490/1008491/1008508/1024388/1027590.html>



～「学校における働き方改革」の取組目標～

『私たちのピース・リスト 2023』

ここに示した一つ一つの取組目標は、私たちの描く「学校における働き方改革」の“ワン・ピース”（一部分・一欠片）でしかありません。

児童生徒の成長や発達を支援する教職員が“働きやすさ”“働きがい”“心身の健康”を十分に実感できる学校（職場）づくりに向けて、関係者一人一人がこれらを自分事として受け止め、その役割と責任の下、各々の取組を着実に進めることで「学校における働き方改革」は描かれていきます。

各市町村や各学校でもそれぞれの“ワン・ピース”を集めて、関係者で共有し、それぞれが目指す「学校における働き方改革」を描いていきましょう！

令和6(2024)年3月

 沖縄県教育委員会

- 『私たちのピース・リスト2023』は、令和5年度始めに県内公立学校の全教職員を対象として実施したアンケート結果等から洗い出した課題に対して、一つ一つ取組事項を、短期・中期・長期の目標として設定したものです。
- 短期は令和6年度まで、中期は令和8年度まで、長期は令和9年度以降としています。



『私たちのピース・リスト2023』
を活用し、自分事として取り組む

取組期間は？

Ⅲ 取組期間

TERM

スケジュール	令和6年度(2024年度)	令和7年度(2025年度)	令和8年度(2026年度)
本プラン	集中取組期間(3年)		
	初年度評価・検証	中間年度評価・検証	最終年度評価・検証

2023年

【文部科学省】第4期教育振興基本計画

【基本施策】学校における働き方改革、処遇改善、指導・運営体制の充実の一体的推進

- これら一連の施策を安定的な財源を確保しつつ、**令和6年度から3年間を集中改革期間**とし、スピード感を持って、令和6年度から小学校高学年の教科担任制の強化や教員業務支援員の小・中学校への配置拡大を速やかに進めるとともに、令和6年度中の給特法改正案の国会提出を検討するなど、少子化が進展する中で、複雑化・多様化する課題に適切に対応するため、計画的・段階的に進める。



● どうやって、評価するの？

IV 評価

ASSESSMENT

「3軸・6視点」に基づいて、次の成果指標を設定し、毎年度、評価する。

成果指標
1

学校評価（教職員対象）の評価項目に、下記の「3軸・6視点」に関する5項目を位置づけ、肯定的回答の割合を成果指標とする。

成果指標
2

「3軸・6視点」に関する管理職アンケート調査を実施し、肯定的回答の割合を成果指標とする。

成果指標
3

客観的計測による在校等時間を集計し、教職員の長時間勤務者の人数と割合を成果指標とする。

「3軸・6視点」に関する5項目（学校評価に設定）

- ✓ 同僚・管理職との良好な人間関係の構築ができている。
- ✓ 個人の裁量（ゆとり）ある時間の確保ができている。
- ✓ 一人一人の児童生徒との信頼関係を深めることができている。
- ✓ より専門性を発揮するための研修や教材研究等が充実している。
- ✓ 心身の健康の確保と安全・快適な職場環境の形成ができている。

学校評価に設定

● どうやって、検証するの？

V 検証

成果指標の目標値

VERIFICATION

成果指標1、成果指標2の目標値

全教職員の「3軸・6視点」の実感向上を目指して、令和8年度（2026年度）末までに

- 肯定的回答の割合を80%以上とする。

成果指標3の目標値

教職員の心身の健康を守るために、全教職員が時間外在校等時間上限（月45時間、年360時間）以内での勤務を目指して、令和8年度（2026年度）末までに

- 時間外在校等時間が月80時間を超える教職員をゼロとする。
- 時間外在校等時間が月45時間、年360時間を超える教職員の年平均割合を令和5年度の50%以下とする。（県教育委員会設定部分）

※市町村教育委員会においては、地域の実情に応じて下線部分（県教育委員会設定部分）を変更可とする。

保護者・地域の皆様へ

学校・家庭・地域が一体となった取組が必要です！

- 子供たちが未来を切り拓いていくためには、学校・家庭・地域が連携・協働し一体となって、学校における働き方改革を推進し、子供たちへのより良い教育が行える環境を整備することが重要です。
- 学校における働き方改革が実現することにより、「学校が人をつくり、人が地域をつくり、地域が学校をつくる」という循環（サイクル）の中で、質の高い学校教育が行われ、沖縄の未来である子供たちが地域の担い手となり、沖縄らしい優しい社会の実現につながります。

学校における働き方改革の実現による沖縄県の未来像

学校における働き方改革の目的：子供たちへのより良い教育を行う



- 学校における働き方改革には特効薬はなく、「各々がその役割と責任に基づいて自分事として取り組む」「できることから直ちにに取り組む」という姿勢が重要となります。
- 学校・家庭・地域が、部活動や地域行事等の様々な活動における連携分担について対話を積み重ね、その連携分担の必要性等を理解した上で、連携・協働することが大切です。
- 子供たちのためにも、高度専門職である教師が、本来業務に専念できる環境の整備が必要です。教職員が忙しすぎることは、子供たちのためになりません。
- 保護者や地域の皆様には、「私たちのピース・リスト2023」などを基に、学校・家庭・地域の連携分担を進めるなど、教育環境の整備に向けた様々な取組へのご理解とご支援を宜しくお願いします。

◆ 「より良い教育を行う」

学校・家庭・地域が一体となった取組が必要

対話が大切

「人こそが最大の資源」

との考え方を共有

学校における働き方改革の実現による沖縄県の未来像

学校における働き方改革の目的：子供たちへのより良い教育を行う



- 誰一人取り残さない社会 (Society where no one is left behind)
- 持続可能な沖縄の発展 (Sustainable development of Okinawa)



「人こそが最大の資源」

との考え方を共有

学校・家庭・地域社会の相互の連携及び協力のもとに、

時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、

生涯学習社会の実現を図る



★ 持続可能な社会の創り手の育成

✓ 自立（自律）した学習者の育成

「子供たちに対してより良い教育」を行う

児童生徒と教職員のウェルビーイングの向上
「3軸・6視点」の実感の向上

「人こそが最大の資源」
との考え方を共有

学校における働き方改革の推進

「時間と機会の創出」

■ なぜ、推進するの？

■ 交流タイム2（隣近所の方と情報交換を！）

目指す方向性を共有したところで

● 「より良い教育を行う」教育環境を整備するために

○○○○な教頭でありたい！

 どのような教頭を目指していますか？

（投稿欄「交流タイム2」にコメントを返信してみよう!!）